

ハイデルベルク信仰問答より

問 79 それでは、なぜキリストはパンをご自分の体、杯をご自分の血あるいは血による新しき契約と呼ぶのですか。また、なぜ使徒パウロは、晩餐をキリストの体と血に「あずかる手段」と呼ぶのですか。

答え キリストは確かな理由なしに、このように語られることはありません。主はパンとぶどう酒が現在の朽ちゆく生命を支えるのと同じように、主の十字架の体と流された血が、永遠の生命に対する私たちの魂の真の食物また飲物であることを、それによって教えようとされているのです（ヨハネ 6:51, 55）。むしろ、主は、この目に見えるしるしと確証とによって、私たちが主の記念に、この聖なる形見を口で受けると同じ確かさで、聖霊の働きによって主の真の体と血にあずかることを確信させ（I コリント 10:16-17）、また私たちが自分自身で苦しみをうけ、私個人が償いをなしたかのように、確かに主の一切の苦難と死が私たちのものであることを、確信させようとしているのであります。

今日扱う問 79 では、二つの質問が投げかけられています。そして、それに対する二つの回答が「答え」の中で示されています。

問い

なぜキリストはパンをご自分の体、杯をご自分の血あるいは血による新しき契約と呼ぶのですか。

答え

主はパンとぶどう酒が現在の朽ちゆく生命を支えるのと同じように、主の十字架の体と流された血が、永遠の生命に対する私たちの魂の真の食物また飲物であることを、それによって教えようとされているのです。

ここでは、主イエスが最後の晩餐の席で、パンを手にとられたときそれを「わたしのからだ」と言い、杯を手にとられたときそれを「わたしの契約の血」と言われた理由について問われています。それに対して答えでは、物質的なパンとぶどう酒は「肉体の糧」となるが、それが聖餐式という場面で食されるとき「霊の糧」になると説明されています。物質的に何か変化が生じるわけではありませんが、礼拝における聖餐式という特別な場面では、「主イエスと信者との契約」という新しい意味が加えられているのです。それは、結婚指輪に例えてみると分かるように、指輪が結婚式という特別な場面で新郎と新婦との間で交わされるとき、単なる金属の塊ではなく、二人の誓いという意味が加えられているのに似ているでしょう。そして、その指輪は結婚生活の中でも絶えず二人の関係を証しするものとして、大切にされ続けるはずで、同様に、聖餐のパンと杯は、主イエスと信者の深い霊的結びつきを表しているのです。

問い

なぜ使徒パウロは、晩餐をキリストの体と血に「あずかる手段」と呼ぶのですか。

答え

主は、この目に見えるしるしと確証とによって、私たちが主の記念に、この聖なる形見を口で受けると同じ確かさで、聖霊の働きによって主の真の体と血にあずかることを確信させ、また私たちが自分自身で苦しみをうけ、私個人が償いをなしたかのように、確かに主の一切の苦難と死が私たちのものであることを、確信させようとしているのであります。

二番目の問いでは、信者がパンと杯をいただくという行為がキリストのからだと血に「あずかる手段」であるとはどういう意味かと問われています。

まず興味深いのは、「**聖なる形見**」という表現です。主イエスが現在は地上におられないので、聖餐のパンと杯はまるで「亡き方」の形見のような役割を果たしていると言うのです。ただ、主イエスは今の後も永遠に生きておられる方でありますから、「地上から離れた方が残し
てくださったもの」と言ったほうがより正確でしょう。

「あずかる」ということばはキリスト教的であり、敢えて漢字で書くならば「与る」となります。本質的に「恩恵にあずかる」という意味が込められている表現でしょう。主イエスの恵みにあずかる、全身全霊でそれを受け留めるということです。パンと杯をいただくとき、私たちは最大限の理解と感謝をもって食すべきなのです。

私たちがベストを尽くしてあずかれるよう助けてくださるのが「聖霊」です。聖霊は「**確信**」を持たせてくださるのです。更に、「**私たちが自分自身で苦しみをうけ、私個人が償いをなしたかのように**」と言われていますが、主イエスが払ってくださった犠牲を「我がもの」とすることができるというのです。もう少し丁寧に言いますと、私たちには自分の罪を神に対して償うことが決してできませんでしたが、主イエスが身代わりにご自分のいのちをもって償い、その「完全な償い」を私たちが自分で成し遂げたかのようにいただくことができるということです。それが、聖餐式において起きていること、いえ、そのようなことが実現したという事実を確認しているのが毎回の聖餐式なのです。

最後に、「**確信させようとしている**」と言われているように、主イエスは私たちがこの福音理解をあやふやなままであることを望んではおられず、徹底的に理解し、絶対に忘れることがないようにと訴えておられます。パンを食べ杯を飲むという具体的な行為を通して、主の約束がこれほどまでも確かであることを体験するよう命じられている。陪餐者は、「あなたの罪は赦された」という宣言を毎度聞き取っているのです。